

令和元年度高温下における農作物技術対策情報

令和元年8月2日（金）
相双農林事務所農業振興普及部

1 気象情報

(1) 高温に関する東北地方気象情報 第1号（令和元年7月27日 仙台管区气象台発表）

東北地方では、7月30日から8月3日頃にかけて、最高気温が35度以上となる場所があるでしょう。

東北地方では、7月30日から8月3日頃にかけて高気圧に覆われて晴れるため、最高気温が35度以上となる場所がある見込みです。熱中症など健康管理に注意してください。

(2) 向こう1か月の天候の見通し（8月3日～9月2日）（令和元年8月1日仙台管区气象台）

東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わっていくでしょう。向こう1か月の平均気温は高い確立60%です。週別の気温は、1週目は高い確率80%です。

2 生育状況（8/1現在）

品目	生育状況等
水稲	作柄判定ほ（新地「ひとめぼれ」・5/10田植え）では平年並みの8/1出穂となっている。 浜地域研究所データより ・「ひとめぼれ」出穂期 8/1（平年+2日） ・「天のつぶ」出穂始期 8/1（平年+2日） ・「コシヒカリ」幼穂形成始期 7/21（平年+4日）
大豆	・開花始期（通常播種「タチナガハ」）
野菜	【大玉トマト】 ・10段目開花、3段目収穫。出荷量は前年より少なめ。 【ミニトマト】 ・4月下旬定植ほ場では2段収穫。出荷量は前年より少ない。 ・4月下旬定植ほ場では7段着蕾2段収穫。 【ねぎ】 ・秋冬ねぎ現在の生育はやや遅れ気味。 ・夏秋ねぎは7月から収穫が始まっている。 【にら】 ・生育は平年並。 【秋タマネギ】 ・収穫終了。次作は8月下旬より播種の予定。 【春タマネギ】 ・生育後半で、6月下旬の降雨により、べと病が蔓延し、茎葉の傷みが大きいため、玉張りは不良。 ・7月下旬以降の高温乾燥により、小玉での収穫となる見込み。

	【ブロッコリー】 ・播種～育苗中。8月中旬以降定植予定（平年並）。																												
果樹	○日本ナシ <table border="1"> <thead> <tr> <th>品種</th> <th>計測値</th> <th>相馬</th> <th>平年比</th> <th>南相馬</th> <th>平年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">幸水</td> <td>縦径</td> <td>56.5</td> <td>109.3</td> <td>60.0</td> <td>111.3</td> </tr> <tr> <td>横径</td> <td>71.0</td> <td>112.3</td> <td>73.7</td> <td>112.7</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">豊水</td> <td>縦径</td> <td>55.8</td> <td>109.2</td> <td>57.1</td> <td>113.7</td> </tr> <tr> <td>横径</td> <td>64.5</td> <td>113.2</td> <td>64.2</td> <td>114.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平年比は暦日比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生育日数（満開後日数）で比較しても、平年よりも肥大は良好である。 ・裂果が例年よりも多い傾向にある。 ・一部園地で黒星病が見られる。 ・ハダニ類の発生、及びそれが原因と思われる葉やけが散見される。 	品種	計測値	相馬	平年比	南相馬	平年比	幸水	縦径	56.5	109.3	60.0	111.3	横径	71.0	112.3	73.7	112.7	豊水	縦径	55.8	109.2	57.1	113.7	横径	64.5	113.2	64.2	114.2
品種	計測値	相馬	平年比	南相馬	平年比																								
幸水	縦径	56.5	109.3	60.0	111.3																								
	横径	71.0	112.3	73.7	112.7																								
豊水	縦径	55.8	109.2	57.1	113.7																								
	横径	64.5	113.2	64.2	114.2																								
花き	○トルコギキョウ 【盆咲き】 <ul style="list-style-type: none"> ・草丈 100cm 程度で平年より長く、一部で開花遅れが見られる。 ・青色の品種を中心に着色不良発生。大輪品種を中心にプラスチング発生。 【彼岸咲き】 <ul style="list-style-type: none"> ・草丈 60～70cm 程度で平年より高いが、やや生育遅れている。 ○カスミソウ 【夏秋切り】 <ul style="list-style-type: none"> ・収穫中。草丈 115 cm程度で切り花長は十分確保されている。 																												

3 今後の技術対策

1 水稻

(1) 生育ステージの確認

高温により水稻の生育が早まります。品種毎に出穂を確認し、水管理、病虫害防除等の適切な管理を行いましょう。

(2) 水管理の徹底

高温時には、「昼間湛水-夜間落水」管理や飽水管理（ひたひた水状態）とし、水田の水温、地温を下げ根の活力維持を図りましょう。

(3) 病虫害防除

ア 斑点米カメムシ類

休耕田の管理、畦畔の草刈りを徹底しましょう。なお、出穂間際の草刈りはほ場にカメムシを追い込むので、草刈りは出穂 10 日前までに行いましょう。

イ いもち病

葉色が濃く窒素栄養が過剰な場合やいもち病の常発地帯では、穂いもちの発生に注意し、上位葉に発病を確認した場合は、直ちに散布剤により防除を行いましょう。

2 大豆

(1) 肥培管理

明きよによる停滞水を除去し、排水確認しましょう。初期生育不良ほ場（湿害）へは、追肥を行いましょう。

(2) 病虫害防除

高温年にはカメムシ類やダイズサヤマバエの多発生が予想されますので、ほ場を観察し適期に防除しましょう。防除は、着莢期（8月中旬）～子実肥大盛期に10日間隔で2～3回行いましょう。また、紫斑病対策としては、開花期後20～40日間で1～2回防除を行いましょう。

3 野菜

(1) ハウス栽培での高温対策

側面と妻面を開放して換気を図りましょう。きゅうり、トマト等において高温による生長点のしおれが見られる場合は、日中の暑い時間帯に遮光、遮熱資材でハウスを覆いましょう。

(2) かん水

かん水はチューブを用いた少量多回数が望ましい方法です。なお、畦間かん水を行う場合は、日中の高温時を避け朝夕の涼しい時間帯に行い、長時間水をためないように注意しましょう。

(3) 敷きわら等

露地栽培では、通路等への敷きわら等を厚くし、地温上昇と乾燥を防止しましょう。

(4) 草勢の維持

トマト等の果菜類は摘果を行い、着果負担を軽減し草勢維持に努めましょう。また、老化葉の摘葉を行いましょう。

追肥は、液肥やペースト肥料の土壌かん注を行うとともに、葉面散布を併用しましょう。

(5) 病虫害防除

乾燥時はアブラムシ類、ハダニ類等の発生が多くなりますので、農薬の使用基準を遵守して適期防除を行いましょう。

4 果樹（日本なし）

(1) 修正摘果

今年は、幸水の裂果が多いため修正摘果で果実品質を揃える様にします。小玉化やなども同時に摘果して下さい。

(2) 徒長枝管理

主枝や垂主枝の背面に発生した徒長枝や発育枝は、強い枝を中心に除去し、日焼け防止等のため、弱めの枝を適当な間隔で配置します。

(3) 病虫害防除

乾燥時は、ハダニ類、カメムシ類等の発生が多くなりますので、農薬の使用基準を遵守して適期防除を行いましょう。

5 花き

(1) 施設栽培の温度管理

施設栽培では高温障害回避のため側面と妻面をできる限り開放して風通しを良くしましょう。また、日中の暑い時間帯は遮光資材で遮光し、施設内温度や植物体温の低下に努めましょう。

(2) マルチ等

敷きわらや白黒ダブルマルチの積極的な活用によって、地温上昇や土壌乾燥を防ぎましょう。

(3) 葉面散布

高温期は、カルシウム欠乏による葉先枯れ症状（トルコギキョウ等）が発生しやすいため、生育状況に応じてカルシウムの葉面散布剤を散布し、養分補給を行いましょう。

(4) 病虫害防除

アブラムシ類、ハダニ類等は、乾燥条件で発生しやすくなりますので適期防除に努めましょう。薬害の発生を防止するため、薬剤の散布は日中を避け、早朝等のできるだけ涼しい時間帯に実施

しましょう。

6 畜産

(1) 家畜・家禽

高温環境下では、家畜は体温上昇を防ぐために呼吸数や血流を増加させ、エネルギーを余分に消費する一方で飼料摂取量が減少するために生産性が低下します。家畜の体温上昇抑制のため暑熱対策を徹底しましょう。

(ア) 畜舎内の飼養環境の改善

ア 畜舎の窓・扉を開放し、換気扇、送風機により送風、通風促進を図りましょう。

畜舎入り口やダクトファンの前方に細霧装置による噴霧や、直接床に散水することにより、畜舎内の体感温度の低下に効果があります。

また、飼養密度を下げることも、家畜の体感温度の低下に効果があります。

イ 寒冷紗等を利用して畜舎内への直射日光を遮光し、畜舎内の温度上昇を防ぎましょう。

ウ 畜舎内を清潔に保ちましょう(アンモニアの発生や高温多湿とならないよう、除糞、敷料の交換をこまめに行います)。

エ 家畜をよく観察し、特に暑熱のダメージが大きい家畜については、畜体へ直接水をかけるなどの応急措置を行いましょう。

(イ) 飲水及び飼料の管理

ア 新鮮な水を十分に飲水できるよう、給水施設を清潔に保ちましょう。また、バルククーラーなどを活用し冷却水を与えるなどの工夫をしましょう。

イ 牛は採食すると、ルーメン発酵による熱が発生します。質の劣る飼料はルーメン内の発酵熱を高めるため、良質な飼料を給与しましょう。

また、早朝及び夜間などの涼しい時間帯での給与や、飼料回数を増やすなどの工夫をしましょう。

(2) 飼料作物

牧草については、過度の刈り及び短い間隔での刈取りを避け、貯蔵養分の消耗を軽減して草勢の維持に努めましょう。また、夏枯れ等による草勢の低下が見られた場合には、必要に応じて追播や播種直後の雑草防除等の確な維持管理作業を行いましょう。

農薬は、最新情報を確認し、ラベルを良く読んで使用しましょう。
収穫前の日数、散布濃度には特に注意が必要です。